

時代を読み解く

シリーズ 27

クリミアの戦略的・歴史的な重要性

2022年2月24日に開

始されたロシアによるウクライナ侵略(ウクライナ戦争)は、西側諸国の支援を受けたウクライナの徹底抗

戦によって激しい戦闘が展開され、現在もお互に断る。許さない状況が続いている。

ゼレンスキー大統領は今

年2月8日、ウクライナ軍のザルジニー総司令官を解任してシルスキー氏を後任に任命し、戦線を維持しながらロシア軍の消耗を狙う「積極防衛」戦略を重視する方針を明らかにした。

クリミア併合10年をめぐる歴史の相克

ロシア帝国への固執

ロシア帝国での「ノヴォロシア」

クリミアが持つ戦略的歴史的重要性——黒海艦隊の基地があるだけでなく、ロシアによる長大な植塚の構築によって地形的に地上部隊の進軍が極めて困難となったことなどが広く認識される。ロシア指導部の発言内容などにもそれが顕著

これは、現在のウクライナを中心とした港湾インフラの建設は、西欧諸国と自由貿易事業を進展させるための要諦となった。

クリミアは、1917年のロシア革命後のロシア内戦や第2次世界大戦期の独ソ戦(大祖国戦争)の激戦地としても知られている。

今月の講師 花田 智之氏

防衛研究所戦史研究センター 戦史研究室主任研究官



1977(昭和52)年生まれ、北海道出身。北海道大学法学部卒業、同大学院法学研究科博士課程単位取得退学。博士(法学)。2010年に防衛研究所入所、ロシア科学アカデミー東洋学研究所客員研究員、防衛大学校国際関係学科講師などを歴任。専門はロシア政治外交史。最近の主な業績に『日ソ戦争史の研究』(日ソ戦争史研究会編、勉誠出版、23年)、『世界史としての「大東亜戦争」』(細谷雄一編、PHP新書、22年)、「ロシアとクリミアの歴史的地位——ロシア帝国への固執」(『国際安全保障』第51巻第2号、23年9月)などがある。

こうした場合、ロシアとウクライナの歴史的關係についても大きな注目が集まっている。その背景には、2014年3月のロシアによるクリミア併合後、ロシアの連邦構成主体の1つとして実効支配されてきたという既成事実に加え、ロシアとウクライナの歴史的關係について、ロシアの安全保障上の

に表れている。昨年2月5日にメドベージェフ安全保障会議副議長はSNSで「クリミアを攻撃すること、ロシアを攻撃すること同じであり、紛争のエスカレーションを意味する」と発信した。こうした問題意識を踏まえ、ここではロシアとウクライナの歴史的關係について、ロシアの安全保障上の

再び懸念される「クリミア戦争」 1954年2月にベレヤスラフ協定の締結300周年を記念してクリミアはウ

テーマをさらに深掘り
「防研セミナーブリーフィング」

執筆者の花田主任研究官が今回のテーマをさらに深掘りして解説し、防衛省職員と突っ込んだ議論を行う「防研セミナーブリーフィング」が4月19日(金)午後3時~4時まで、市ヶ谷のF1棟6階「国際会議場」で開かれます。参加者は隊員に限定します。ご興味ある方は奮ってご参加ください。▽問い合わせ＝防研企画調整課03-3268-3111(内線29177)まで。